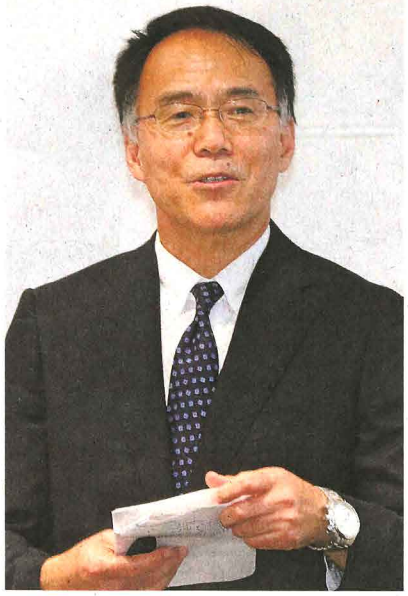
2018年10月24日（水）　山陽新聞［NIE］

岡山県推進協大学部会セミナー

主体的な学び推進

岡山県ＮＩＥ推進協議会（会長・加賀勝岡山大副学長）の大学部会セミナーが９月13日、山陽新聞社の印刷工場さん太しんぶん館（同県早島町早島）で開かれた。川崎医療福祉大（倉敷市松島）と中国短期大（岡山市北区庭瀬）の教授が、社会への関心を高め、主体的な学びを推進する新聞教育の成果と課題を報告した。要旨を紹介する。（大石哲也）

川崎医療福祉大
宮川　健教授
（総合教育センター長、副学長補佐、健康体育学科長）



ワークショップで親しみ

川崎医療福祉大では、医療福祉という総合的な視野に立って現代社会における多様な課題に向き合う人材の育成に取り組んでいる。その支援を行うのが総合教育センターだ。

医療福祉に関する最新の情報に加え、幅広い教養、国際感覚などを身に付けてもらうため、信頼性のある情報を多角的に、そして短時間で把握できる新聞は最適の教材になると考える。その活用策として、今年7月に開設した教育支援拠点・ラーニングサポートセンターで、月1回程度「新聞カフェ」を開くことを企画した。

本年度の目標は、新聞に親しむことと他職種との連携を図ること。7月17日の第1回新聞カフェには、山陽新聞社の記者の協力で、新聞を使ったワークショップ「まわしよみ新聞」を実施、医療技術学部を中心に約20人が参加した。

4、5人のグループに分かれ、新聞を読んで興味を引かれた記事を切り取り、内容について語り合う。そして、全員が切り取った記事を模造紙に貼り合わせてコメントを書き込み、1枚の壁新聞を作成する。社会問題や地域ニュース、スポーツ話題、新聞広告まで幅広い記事を集めたユニークな新聞が出来上がった。

学生たちに感想を寄せてもらったところ「楽しかった」「新聞に多くの情報が載っていることにあらためて気付かされた」という意見のほか「仲間たちと共有することで記事への興味と理解が深まった」などと、新聞に関心を抱いたことも分かった。教員を目指す学生からは「将来教壇に立った時に活用したい」という声も上がった。

思った以上の好反応で、本年度は新聞カフェで「まわしよみ新聞」を定期開催することを決定。作成した壁新聞を集めて「年間大賞」を決めるなど、学生の関心をかきたてる工夫をしていくつもりだ。今後もラーニングサポートセンターを拠点に新聞を活用して、学生の基礎教育の充実を図りたい。

中国短期大
松井　圭三教授
（保育学科、専攻科介護福祉専攻）

記事活用の教材効果的

日常的に新聞に親しんでもらうことで、学生の主体的な学びを推進しようと、新聞記事を通して社会福祉を広く学ぶテキスト「ワークブック」を作成。講義全体を通して活用し、体系的なＮＩＥの実践教育に取り組んでいる。本年度は、保育学科と総合生活学科、情報ビジネス学科で私が受け持っている前期講義で毎回実施した。

使用したのは「ＮＩＥ社会福祉記事ワークブック」と「ＮＩＥ児童家庭福祉演習」の二つ。各章には新聞各紙から選抜した関連分野の記事を2本ずつ掲載し、内容に応じた解説付きの設問と感想を書き込む欄を設けている。記事を通して社会福祉への理解を効果的に深め、設問や感想を書き込むことで「考える力」や「書く力」の養成にもつながると考えている。

1回90分の講義では、30～40分を使って学生たちに設問への回答と感想を書き込ませ、残りの時間でその内容について4、5人のグループで意見交換させた。学生たちはワークブックに掲載された記事を読み込んで制度や専門用語、地域の現状などを調査し、設問に回答。記事への感想を自分の言葉で書き込み、活発に意見を交わしていた。

講義の成果を検証しようと、保育学科の2年生48人を対象にアンケートを実施した。「福祉を学ぶ上で役に立った」という回答が半数以上を占め、「文章表現の向上に役立った」は20人に上った。ワークブックを使ったＮＩＥ教育は、福祉への理解と表現力の養成に一定の効果があることが確かめられたと思う。

新たなワークブック「ＮＩＥ家庭支援論演習」が完成し現在、後期講義「家庭支援論」で使用している。介護をテーマにしたワークブックも制作中。講義以外にも学内のカフェに新聞コーナーを設けたり、研究室前に過去の新聞を収めた箱を設置してリポート作成の資料として活用してもらったりして、学生が新聞から学ぶ機会を増やす取り組みを行っている。